

若者市政塾での

「市長とふれあいトーク」発言に対する処理状況

【平成18年1月末現在】

(開催概要)

日時：平成17年8月19日(金) 19:00～20:15

場所：かごしま市民福祉プラザ

検討結果等、
処理状況の分類

1. 既に施策等に盛り込み済み、処理済みのもの
2. 施策への反映を検討中、処理中のもの
3. 要望等に沿い難いもの
4. 市の所管に属さないもの
5. その他

平成18年3月

鹿児島市市民参画推進課

日時：平成17年8月19日（金）19:00～20:15
 場所：かごしま市民福祉プラザ 5階中会議室

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
1	専門学校生 男性	① 鹿児島は、一極集中型の交通体系だが、そのために交通渋滞が起こりやすいのではないかとこの声がある。この点をどのように考えるか。	① 交通体系を根本から見なおしていかなければならない時期にきている。合併した5町を含めた新生鹿児島市の交通体系を構築していかなければならないと思っている。 そのためには、バス協会とも協議しながら、分散化について検討していかなければならないと思う。 また、皆さんの意向を調査をし、時差出勤も検討しなければいけない。 国・県と一緒に交通渋滞対策に知恵をしばっていかなければならないと思っている。 国は、東西幹線道路として、5年後に武岡トンネルをもう一本完成させるということで事業を進めている。それと、産業道路の混雑解消のための南北幹線道路の計画及び磯のバイパス建設の要望もある。 それらを総合的に勘案し、整備を計っていきたいと思っている。	企画部、 建設局	① (企画部) 本市においては、交通渋滞対策をはじめ、今後の高齢社会やバリアフリー社会への取り組み、環境問題への対応など、交通に関する様々な問題を抱えており、また、お質のように、本市のバス路線等は都心集中型になっていることから、交通需要に即した機能的な交通ネットワークの充実強化を図ることが必要である。 このような都心部への一極集中的な交通体系については、交通事業者とも連携をとりながら、バス路線の相互乗り継ぎ機能の強化や市電・鉄道との結節を踏まえたバス路線の再編など、市内の交通ネットワーク化を見直す必要があると考えている。 具体的には、これまで、中央駅において、駅前広場内に市電の電停を移設し、また、ターミナルを整備したほか、宇宿電停において、市交通局がバス路線と市電との結節を強化している。 さらに今後は、谷山駅周辺地区リニューアル整備事業の中で、JR谷山駅前にて、バス事業者のバス路線乗入れも計画しているところである。 その他、結節強化を図るところもあると思うが、交通事業者と連携を図りながら、進めたいと考えている。 なお、本市の課題の一つである交通渋滞対策については、今後とも、交差点改良や道路整備などのハード施策を進めるとともに、時差出勤の検討や公共交通機関の利便性の向上を図るなど、ソフト施策の取り組みも進めることとしている。 (建設局) 本市の総合計画や都市マスタープランにおいて、「骨格的な幹線道路として、広域的な自動車専用道路等と連携した鹿児島東西幹線道路や鹿児島南北幹線道路の建設を促進し、市域への流入部や市街地部の交通混雑の解消を図る。また、自動車交通の円滑な流動を確保するため、幹線道路の新設・改良等の整備を計画的に進めるとともに、交通渋滞緩和のため、道路拡幅及び交差点改良並びにバイパス機能を有する道路の整備に努める。」こととしており、道路整備を取り巻く厳しい状況の中、交通渋滞の緩和にあたっては、道路整備等のハード面や交通量を調整するためのソフト面の両面から、総合的な対策を講じるため、国・県・市がそれぞれ役割分担し、取り組んでいく必要がある。	(企画部) (検討結果、今後の方針等のとおり)	1
						(建設局) (検討結果、今後の方針等のとおり)	1

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
		② 鹿児島は、もっと観光PRをできると思うが、観光戦略についてどう考えているか。	② 九州新幹線が一部開通し、市は大変なエネルギーと活気をいただいた。この効果を継続することが、私どもに課せられた使命と思う。 そのためには、観光の施策に重点的に力をいれ、交流人口を増やす手立てをしていかなければならないと思う。魅力あるまちづくりをするためには、観光がもっとも大切な課題だと思っているので、県と一体となり、知事・市長がトップセールスとして鹿児島の良さをPRしていきたいと考えている。 平成17年度に、新幹線の全線開通を見据えた「未来観光戦略」を策定することになっている。具体的には、中央公民館、中央公園、ナポリ・パース通りのライトアップや、歴史ある加治屋町のまちづくりなどを行い、今後の観光の目玉にしていきたいということを考えている。	経済局	② 「鹿児島市観光未来戦略」の策定を行い、郷土のオリジナリティを生かした国際観光都市づくりに努めていきたい。具体的には、 ・ライトアップやイルミネーションによる彩り豊かな夜の景観創出 ・美しい錦江湾を舞台にした感動のクルージング ・緑豊かな田園や森林を生かしたグリーンツーリズムの促進 ・豊かな温泉や世界に誇りえる桜島の活用 など 本市が持つ豊かな資源や特性などのオリジナリティを最大限に生かしながら、新たな魅力作りを進めていきたい。 また、このような多彩な魅力を国内外に広く発信するために、テレビドラマや映画のロケ等の支援や、テレビや旅行雑誌等のマスメディアなど、様々な広告媒体を絡めたメディアミックス型の広報宣伝を行っていくとともに、県内、九州内の主要観光地等とこれまで以上に連携して、本市の魅力アピールしていきたい。	九州新幹線の全線開通を見据えて、平成17年12月に「観光未来戦略」を策定したところであり、「一味違う鹿児島」魅力多様な国際観光都市の創造」を基本コンセプトに「感動」魅力あふれる鹿児島の創造」など4つの基本方針と15の重点戦略のもと観光振興を図っていく。	1
2	専門学校生 男性	① 現在の教育はゆとり教育となっているが、ゆとり教育について、どう考えるか。	① 現在、文部科学省が所管する中教審（中央教育審議会）でいろいろ議論されている。 ゆとり教育を取り入れたことにより、学力・知力が低下したとの情報があるが、各自治体にも入ってきているが、学校教育は、知的な学習をする場でもあるが、人間をつくる場でもあると思っている。 知識の習得だけではなく、ゆとりを持って、基礎・基本を徹底して学んでいただき「生きる力」をつけていただきたいと思う。	教育委員会	① 各学校において、指導内容の厳選や校内行事等の見直し等により、ゆとりのある教育環境を確保すること、習熟の程度に応じた指導や補充・発展学習等を充実させ基礎・基本を確実に身に付けた児童生徒の育成に努めること等を、管理職研修会や学校訪問等の機会をとらえて指導したり、指導主事や外部講師を招いた校内研修会で指導したりしている。 これらの取組をさらに推進していき、教師の実践的な指導法を改善したり、「分かる授業」の一層の充実を図ったりしながら、懸念される学力低下の問題等を招くことがないように努めていく。 また、道徳教育をはじめとする心の教育の充実にも力を入れ、豊かな人間性を備えた児童生徒の育成に努めていく。	(検討結果、今後の方針等のとおり)	5
		② 今の学校は、地域との繋がりが少ない。他県で行われている民間人の校長登用について、市では考えているのか。	② 現在、校長の民間人起用については行われていないが、学校事務に携わった人はなれるということにはなっている。 民間人雇用というのも素晴らしい意見だと思う。 今までは、教員免許取得者だけが管理職になっていたが、免許がなくても教育経験があれば登用していくということも、今後に向けた課題ではないかと思う。 また、本市では、学校の運営について、地域の人達と一緒にやっていく制度も取り入れているので、地域の人たちの意見を学校運営に反映させるシステムができていると思っている。	教育委員会	② 鹿児島県では、まだ民間人登用はなされていないが、校長・教頭など管理職には、以前は教諭しかなれなかったが、現在では、事務職員・養護教諭・栄養職員という様々な職種からも登用がなされている。 地域とのつながりについては、本年度から市内の全校に学校評議員制度を導入し、これまで以上に地域との交流がなされるようになってきている。今後とも学校・家庭・地域社会との連携を重視した取り組みを推進していく。	(検討結果、今後の方針等のとおり)	5

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
3	大学院生 男性	本市の渋滞の原因は、物と人が同じ道路を使っているからであると思う。武岡トンネルをもう一本（東西幹線道路）造っても、渋滞が激しくなるのではないか。また、海岸に道路（南北幹線道路）を造っても、山側に人が多く住んでいることもあるので、あまり需要がなく無駄なものになる可能性があると思う。そのことについては、どう考えているか。	武岡トンネルの渋滞解消のため、東西幹線道路としてトンネルをもう一つ造ることは、国が進めている。トンネルを増やしても一極集中になり、次の場所でも渋滞することはわかっているが、まず手がけられないと先に進んでいかない。国も財政難だが、100億円位の事業は市や県単独ではできない。まず大きな幹線を整備し、それに続く県道・市道を整備していくというのが手順だと思う。南北幹線道路については、市民の渋滞解消に繋がるか分からないが、市だけが良くてもいいという訳にもいかない。県全体のことを考えないといけないので、指宿、始良、国分方面から来る人が、スムーズに行けるように必要ではないかと思う。国、県、市とも財政が厳しいが、まず出来ることから実施することで計画している。	企画部、建設局	(企画部) 市長の発言のとおり	(企画部) (検討結果、今後の方針等のとおり)	5
					(建設局) 鹿児島東西・南北幹線道路は、九州縦貫自動車道等の高規格幹線道路を補完して広域幹線ネットワークを形成するとともに、鹿児島市を核とする広域都市圏内等の有機的な交流・連携の促進に資する道路として、また、本市の東西・南北交通軸を強化し、市域への流入部や市街地部の交通混雑解消を図る骨格道路として必要不可欠な道路である。道路整備を取り巻く厳しい状況の中、交通渋滞の緩和に当っては、道路整備等のハード面と交通量を調整するためのソフト面の両面から総合的な対策を講じるため、国・県・市がそれぞれ役割分担し、取り組んでいく必要がある。	(建設局) (検討結果、今後の方針等のとおり)	5
4	専門学校生 女性	今の中学・高校生を見ていると、受験のために勉強をするような感じである。学校では、寝ていたり、先生の話を聞かず、夜に塾に行き受験のための勉強をしている。また、学校行事も多く、部活動もあり、子供が忙しそうなお感じがある。	教育は、児童・生徒の知力・学力を向上させるということもあるが、大人になってから健やかな生活を営むための基礎を築くということも基本にある。しかし、現実としては、塾が盛んになり、塾に通っているという傾向がある。学校、家庭、本人また地域も含め、うまく連携がとれていないというのが現状ではないかと思う。	教育委員会	中学生や高校生の中には自分の将来の夢や目標が見つけれず、何事に対しても一生懸命になれない生徒もいる。一方、小学校や中学校の早い段階から自己の伸長や自分の目標達成のために真剣に努力している生徒もたくさんいる。学習を塾に頼ったり、学校で授業中に集中できない人の中には、自分の目標を見つけれない生徒が多いようである。そこで、生徒がそれぞれの夢や希望をもつことができるような教育を進めていくために次のようなことを充実させていきたいと考えている。 ① 分かる授業、力がつく授業を目指して様々な研修を行うことによって教師としての力量を高めていきます。 ② 生徒の心身ともに健全な成長を願って、学校行事の工夫をしたり、部活動の指導をしたりしていきます。 ③ 「ふるさと先生招へい事業」の実施により、社会で活躍しておられる学校の先輩たちを学校に呼んで、生き方を学び、夢や希望をもつことの素晴らしさを教えていきます。 ④ 学校、家庭、地域等の意見をよく聞き、学校の実態や課題を明確にするために本年度から本格的に実施している学校評議員制度を生かして、「生きる力」をもった子どもたちを育成する学校づくりを進めていきます。	(検討結果、今後の方針等のとおり)	5

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
5	大学生 男性	ウオーターフロントのドルフィンボート周辺は、夜間、駐車禁止が厳しかったり、トイレが使用不可能になっていたりする。駐車場も近くに設けられているが分かりにくい。せっかく立派なものができるので、観光資源として親しみやすいものにできないのか。	規制のための行政ではないので、今後とも、皆さんが活用できるような方法を考えていかなければならないと思う。	経済局、建設局	(経済局) 観光資源として活用していけるよう検討したい。	(経済局) (検討結果、今後の方針等のとおり)	2
					(建設局) 関係者と協議した結果、 ・「夜間、駐車禁止が厳しい」ことについては、安全確保のため路上駐車ではなく、近くの駐車場を利用させていただきたい(ドルフィンボートの駐車場は24時間利用可能)。 ・「夜間、トイレが使用不可能になっていたりする」ことについては、ドルフィンホール横のトイレは、午後10時までの利用とさせていただいておりますが、ドルフィンボート内の各店舗のトイレは、だれでも利用できますので、ご自由に利用していただきたい。 ・「駐車場が分かりにくい」ことについては、案内標識を検討したい。 とのことである。	(建設局) 本港区のドルフィンボート周辺においては、今後、高速船乗り場の移転やNHK新鹿尻島放送会館の放送開始などが予定されたおり、本港区の開発については、観光資源としても活用できるように、関係者と随時協議を行っている。	4
6	専門学校生 女性	進学校の教育は、選択肢が大学進学しか与えられていない。他のところでしか学べないものもあると思うが、進学校では、周囲の環境が全て大学進学である。そういった教育について、どう考えているか。	知力の向上も必要だが、人間性を豊かにするのも学校であると感じている。 本人の意志を無視して、画一的に学校を指定するのは、無理があると思うので、本人の考えを十分達成できるような指導も必要ではないかと思う。 また、自分の思うことをぶつけていくのが、若者の特権でもあると思う。	教育委員会	それぞれの高等学校で特色ある教育が行われ、生徒の個性を生かす教育が推進されている。 進路指導においては、個々の希望や適性をもとに、生徒が主体的に進路を選択することができる指導を進めているが、市では「就職サポート事業」により、生徒のニーズに応えた就職支援をしたり、キャリア教育の充実により子どもたちの将来に希望をもたせる教育を推進したりして、一層の充実に向けていく。	(検討結果、今後の方針等のとおり)	5

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
7	アルバイト 男性	市長が、一番何を褒めたいかというのが、若者に伝わってこないが、どう考えるか。	<p>基本は、3K、教育と環境と観光である。</p> <p>教育については、若い人達が育たないと、まちに活気は生まれなし、未来はないと思っている。皆さんが勉強や仕事をしやすい環境づくりも必要と思っている。</p> <p>観光は、先程言ったとおりである。 (1-②参照)</p> <p>環境については、今、地球温暖化やゴミ問題などで環境が破壊されている。皆さんの後輩が住み良いまちにしていくために、環境も重点的な課題として、整えていかなければならないと思っている。</p> <p>具体的に何をすべきかは、これから考えていかなければならない。</p>	環境局、 経済局、 教育委員会	<p>(環境局) 本市では、昨年10月1日、市民総参加で美しいまちづくりを推進することを目的に、「鹿児島市みんなであちを美しくする条例」を施行した。</p> <p>条例では、市内全域における公共の場所及び他人の土地へのポイ捨てや飼犬のふんの放置の禁止などを定めている。また、月に1回程度清掃や美化意識啓発活動を実施する団体をまち美化推進団体として認定しているので、若者のみなさんにも積極的に参加していただき、市民総参加で美しく住みよいまちづくりに取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>さらに、循環型社会の構築に向けて、市、事業者、市民が一体となり、ゴミの発生抑制や再利用、リサイクルなど3Rに積極的に取り組むことによりゴミの減量化、資源化を推進していきたいと考えている。</p> <p>また、本市はこれまで、環境基本計画を定め、地球温暖化の防止策に取り組んできているが、「京都議定書目標達成計画」を踏まえ、これまでの施策の充実を図るとともに、温室効果ガス排出量を削減するため、市・事業者・市民が一体となって、地球温暖化防止に取り組むための計画の策定を検討してまいりたい。</p>	(環境局) (検討結果、今後の方針等のとおり)	5
					<p>(経済局) (1-②に同じ)</p>	(経済局) (1-②に同じ)	5
					<p>(教育委員会) 教育については、未来の鹿児島をつくっていく子どもたちが、郷土に対する誇りと熱い志をもち、知・徳・体の調和のとれた子どもたちを育てていきたいと考えている。</p> <p>そのために、家庭・学校・地域と行政が互いの知恵と創意を結集し、次代を担う子どもたちを育てていく施策に取り組んでいく。</p>	(教育委員会) (検討結果、今後の方針等のとおり)	5
8	専門学校生 女性	市長が尊敬する人は誰か。 また、人生哲学を教えてください。	<p>嘘をつかない人、自分に自信を持っている人を尊敬する。</p> <p>また、人生哲学は、何事に対しても誠心誠意受け答えをする。人の意見を聞き、多くの人と語り、話をしたときに真心を持って接することである。</p>				
9	女性	これから鹿児島市が目指すものは何か。	<p>先程からあるように、九州新幹線が開通すると福岡に一極集中になり、向こうに吸い取られてしまうとも言われているので、まず魅力のあるまちをつくりたい。</p> <p>そして、若者がにぎわう、皆さんが鹿児島がよいなという気持ちになっていただくまちをつくりたいと思っている。それを理想像として掲げ、それを実現するよう、いろいろ事業を考えていきたいと思っている。</p>	企画部	<p>旧5町の資源も活用しながら、本市のオリジナリティを生かした新たな観光の創出などに取り組み、新生鹿児島市の個性や魅力を高めていきたいと考えている。</p>	(検討結果、今後の方針等のとおり)	5

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類	
10	専門学校生 女性	<p>最近、教員の不祥事や犯罪が多い。</p> <p>今度から新規で採用される教職員は、10年に1度、免許更新があるということだが、既に働いている教員は、1年に1回位、勉強会をすれば、更新の必要はないということである。</p> <p>現在の教員がみんな悪いとは言わないが、なぜ若い人達だけが更新をしなければならないのか、全ての教員に実施すれば良いと思うが、考えを聞かせてほしい。</p>	<p>現在の教員免許は、一度取得すると生涯有効という制度になっている。</p> <p>文部科学省は、新規取得者については、免許更新の際に資質向上等の試験を行い、更新を決定するということがある。</p> <p>教職員や公務員など、指導的立場にある者また自分を律しなければならない者が、犯罪を犯したりすることは、許すべきことではなく、大変残念なことである。</p> <p>免許更新制度が導入されるのであれば、若い先生達だけではなく全教職員に適用されるべきではないかと思う。ただし、これについては、国が審議会を設けており、その中でいろいろな意見がでてくるのではないかと思っている。</p> <p>人は年齢で区別するのではなく平等な取り扱いをしていただくことが一番大切ではないかと思っている。</p>	教育委員会	<p>教員免許の更新については、現在、国において様々な議論がなされているところであり、国の動向を注視していく。</p> <p>教員の不祥事は、あってはならないことであり、校長会、教頭会、初任者及び経験者研修会等あらゆる機会に、教育公務員としてふさわしい社会性や道徳性を高め厳しい自律心を堅持することなどについて繰り返し指導していく。</p>	(検討結果、今後の方針等とおおり)	5	
11	大学院生 男性	<p>最近、東京等に就職した20歳代の人達が鹿児島に帰ってきている。しかし、免許(資格)等もあるのに、それを生かせる良い就職先がない。</p> <p>やっぱり鹿児島が好きだと言って帰ってくる若者達の再雇用について、どう思われているか。</p>	<p>今、一番重要な課題であると思う。</p> <p>現在は、新規卒業の人達も大変で、学校側も各経済界を回ってPRされているようである。</p> <p>また、Uターンする技術・知識を持った人達を有効に活用できない環境にもあることから、行政側としては、企業誘致や若い人達の技術力を生かすための環境整備も進めていかなければならないと思う。IT関係の企業がきてくれるが、景気の動向もあり、雇用人数が限定されている。</p> <p>なかなか厳しいが、若い人達やUターンした人達が暮らしやすい環境づくりも検討する必要があると考えている。</p>	経済局	<p>若者の皆様へのUターンの促進策については、県全体の取組みとして、東京都のかごしま遊楽館(鹿児島県東京事務所)内及び大阪市の県大阪事務所内に、Uターン相談窓口が設けられている。</p> <p>また、毎年7月から8月にかけて、県内への就職促進と県内企業の人材確保を図るため、東京、大阪、鹿児島において、一般企業との面接や農業などの就業を希望される方の相談コーナー、ハローワーク職員による就業相談等が行われているところである。</p> <p>企業誘致については、これまでの情報関連産業の企業誘致に加え、環境関連、医療・福祉関連の企業誘致にも今後努めてまいりたい。</p> <p>また、ソーホーかごしまを中心に、起業家の育成・支援に今後とも努めてまいりたい。</p>	(検討結果、今後の方針等とおおり)	<p>(参考)</p> <p>【平成18年度に取り組む事項】</p> <p>企業誘致に関しては、効果的な企業誘致を行うための方策等を18年度上期に研究会等を通じ検討し、下期の企業誘致活動につなげていく。</p> <p>新規創業者の育成・支援に関しては、新たにインキュベーション・マネージャーをソーホーかごしまに配置し、その強化を図っていく。</p>	1

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
12	女性	<p>今まで以上に観光に力を入れていくということになると、財源も新たに確保しなければならぬと思う。</p> <p>市の財政も厳しいということで、教育関係の財源から削られるのではないかと心配しているが、具体的に財源の確保は決まってきたのか。</p>	<p>市の財政は健全だと思っている。必ず支出しなければならぬ職員の給与、生活保護費等の扶助費、公債費の3つを義務的経費というが、本市の場合は、この義務的経費の割合が48%位だが、県は約57%になっているようである。</p> <p>どの予算を削るというのではなく、教育・環境・観光にしても無駄なことはできないし、効率的な運営をしなければならない。</p> <p>教育の予算を観光や道路等の基盤整備に向けてとかではなく、必要に応じて毎年の予算を計上するものである。</p> <p>今のところ市の財政については、順調な運営ができていると思うので、みなさんのいろんな要望についても取捨選択しながらできていると思っている。</p>	総務局	<p>本市の財政は、これまで健全財政を堅持する中で順調に推移してきたが、少子・高齢化の急速な進行による扶助費など義務的経費の更なる増加や合併後の新生鹿児島市の早急な一体化を図るための経費が増大する一方、市税収入をはじめとする自主財源の大きな伸びは見込めない状況にある。また、教育費の財源（義務教育費国庫負担金など）とも密接に関係する三位一体改革による国庫補助負担金の廃止・縮減や県政刷新大綱に基づく県の補助・負担金の削減などにより、本市の財政状況は今後ますます厳しくなることが予想される。</p> <p>このような状況の中で、本市としては、市民と行政がパートナーシップを強め、お互いの知恵と力を結集した協働のまちづくりを進め、「市民が主役の鹿児島市」を実現するために、広く市民の意見をお聞きし、徹底した事務事業の見直しを行う中で、新たな発想による施策にも積極的に取り組んでまいりたいと考えている。</p>	(検討結果、今後の方針等のとおり)	1
13	専門学校生 女性	<p>ミッドナイトバスは、平日の夜11時や11時半に運行しているので助かる。しかし、日曜日に運行していないのは、不便である。</p> <p>また、日曜日にバスの本数が減るが、増やしてほしい。</p>	<p>バス事業者5社でバス協会をつくっており、それぞれの地域の路線が確保されているが、バスの本数等については、協会の協議や会社の経営状況によって決まるものだと思う。</p> <p>ミッドナイトバスについても、皆さんの利便性を考えると、できるだけ土日に運行してもらえればありがたいと思うが、これについてもバス協会等にお話ししなければならないと思っている。</p> <p>収支の問題もあるので、難しい問題である。</p>	企画部	<p>深夜バスの運行曜日については、バス事業者によると、需要見込や採算性、運転手や運行管理者の勤務条件等を十分考慮した上で設定しており、土日の運行については、採算性や従事者の勤務条件などからみて難しいと考えているとのことである。</p> <p>また、路線バスの日曜日の運行本数については、利用者が平日より少ないことから、需要見込に合わせて減便しているとのことである。</p>	(検討結果、今後の方針等のとおり)	4
14	高校生 女性	<p>ノンステップバスは、お年寄りや体の不自由な方のためにつくったバスだと思う。</p> <p>しかし、バスがとても小さいため、すぐ満員になり、お年寄りがつり革で立っている状態がよく見られる。(1番線と5番線)</p> <p>せっかくノンステップバスにするのであれば、もっと大きなバスにしてほしい。</p>	<p>バスの買い替えの際には、ノンステップバスも導入するようにしているので、今の意見を十分に参考にさせてもらう。</p>	交通局	<p>平成17年度は、低公害超低床型大型バス 5両、低床型小型バス 1両の購入を計画している。</p> <p>超低床バスについては、利用状況や運行・路線の効率性など各面から検討し、お客様が快適に乗車できる大きさの車両の購入に努めてまいりたい。</p>	(検討結果、今後の方針等のとおり)	1

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
15	専門学校生 女性	鹿児島を活性化させるために駅ビルやドルフィンポートを建てたり、また、観光PRのためにライトアップを計画しているとあったが、それだけではなく、桜島にもっと人が集まるようにフェリーの工夫をしたりするなど、鹿児島の特徴を生かしたPRをしたらどうかと思う。	桜島は、昨年11月の合併から一島全部が鹿児島市になった。世界に名立たる素晴らしい観光資源なので、総合的に全体の整備をしていかなければならないと思っている。 また、桜島地域だけでなく合併した他の地域にも素晴らしいものがある。これを生かし、都会から鹿児島に来て、そこに滞在し、そこで生活をして帰ってもらう事業など、都市と農村が交流をするような事業をしていきたいと思っている。	経済局、船舶部	(経済局) 世界に誇りえる桜島の魅力を積極的に活用し、PRしていけるよう、桜島フェリー(船舶部)と一層連携して検討したい。 また、市内各地域の資源を生かした都市と農村部との交流を推進するため、平成17年度に「鹿児島市みどり豊かな農山村ふれあい推進基本計画」を策定することとしており、この計画に沿って各地域の特色をPRしていきたい。	(経済局) (1-②と同じ)	1
					(船舶部) 桜島フェリーは、鹿児島が世界に誇れる自然の観光資源である桜島へのアクセスであり、本市の観光振興に寄与していく役割が求められている。 今後とも、納涼観光船の運航をはじめ経済局等との連携を図る中で、観光面での取り組みも進めてまいりたい。	(船舶部) (検討結果、今後の方針等のとおり)	2
16	高校生 女性	脳の病気だと思われるが、病院は嫌だから行きたくないという人がいる。 歯科の訪問診療はあるが、話を聞くために精神科や脳外科などが訪問する等のサービスがあったら良いと思う。	保健所に相談に応じる保健師がいるので、問い合わせをしていただけたらと思う。 保健所を中心に、そういう相談に応じるカウンセラーを増やすようにしているところである。	健康福祉局	保健所では、保健師等の相談員や精神科医師による精神保健福祉相談を実施している。相談員による相談は電話でも応じているので利用していただきたい。 今後とも、相談に応じる精神保健福祉相談員の資質の向上などを図ってまいりたい。	(検討結果、今後の方針等のとおり)	5
17	大学生 男性	臨海大橋からみる桜島や海が好きだが、人工島ができると景色が見えなくなるのではという不安がある。 人工島については、どうなっているのか。	マリンポートかごしま(人工島)については、鹿児島県が事業主体として整備しているところである。現在、1工区は、既に着工済みであるので完成させるが、2工区については、マリンポートかごしまの在り方検討委員会で検討されているようである。 マリンポートかごしま(人工島)の最初の構想は、国際会議場等を造るといったものだったが、それも景気の動向によって難しいものとなった。市民、県民の方々の中にも事業に対して賛成をしていただけないというものもあるようなので、県民・市民の意見を踏まえて十分に議論される所です。	建設局	マリンポートかごしま(人工島)は、鹿児島県が事業主体であり、全体計画67haのうち、現在、1期工事(24.0ha)の事業が進められている。 しかし、県においては、計画策定当時からすると、社会経済情勢が大幅に変化しており、見直しの時期に来ているとし、1期24haのうち既に着工済みの大型観光船が接岸できる貨客兼用岸壁のある1期1工区については早期整備を図るが、残りの1期2工区については、「マリンポートかごしまの在り方検討委員会」を設置して、埋立及びその利用の在り方について検討され、去る10月20日に、「1期2工区の在り方についての提言」を受けたところである。	県は、パブリックコメントによる県民意見も踏まえたマリンポートかごしまの在り方検討委員会の提言や現在の財政状況、社会経済情勢等を総合的に勘案して、県民や観光客が憩い、海と触れあえる緑地空間として整備する等の1期2工区の新たな整備方針を平成17年11月28日に表明されたところである。	5
18	大学生 (留学生) 男性	外国人留学生に対する市の対応は、大変素晴らしいので心から感謝したい。	留学生の方に対しては、毎年、図書券と回数券を贈呈しているところである。	総務局	留学生の皆さんに対して、今後とも図書カード・共通乗車カードの贈呈事業や市国際交流市民の会の交流事業などを通じて、本市で充実した生活が送れるように支援してまいりたいと考えている。	(検討結果、今後の方針等のとおり)	1

番号	発言者	発言内容	市長回答	関係部局	検討結果、今後の方針等	現在までの処理状況	分類
19	高校生 女性	同年代の人は鹿児島のことを良く知らないと思う。例えば、桜島の標高や県の花、知事・市長の名前など。歴史などは、全国どの学校でも学んでいると思うが、今の鹿児島の情勢やどう進展しているかなど、なぜ、学校のカリキュラムに無いのかと思う。	鹿児島県の歴史については、副読本等で各学年、特に小学3年生時に勉強するが、それだけで終わるような感じである。 例えば、大垣市に行くと、薩摩義士については、鹿児島市の人より向こうの人が良く知っている。また、鶴岡市に行くと、中学高校生が鹿児島市のことを良く知っている。そういう歴史を皆様方によく学んでいただくことも大切なことだと思っているので、その点については、検討してまいりたいと思っている。	教育委員会	市内の学校では、鹿児島島の自然や文化、歴史等を学ぶことにより、郷土についての理解を深め、郷土への愛情や誇りをもち、その発展に貢献しようとする態度を育てることを目的とする郷土教育を行っている。 それぞれの学校では、郷土教育の計画を立て、各教科や道徳、特別活動、総合的な学習の時間など全ての教育活動を通して郷土教育を行っている。例えば、鹿児島に伝わる昔話や歌、鹿児島弁の学習、西郷や大久保、平田朝徳など郷土の先人に学ぶ活動、史跡を調べる活動、棒踊りなど伝統的芸能の伝承などに努めている。 また、地域では、城山登山やセゴドンノエンコ、妙円寺詣りなど郷土の行事に参加しているところもある。 市教育委員会では、小学3・4年社会科副読本「のびゆく鹿児島」をはじめ、郷土の偉人や史跡のガイドブックなどを作成したり、人材バンクや郷土資料のデータベース化を行ったりして、その活用を促進していく。 これからも、学校、地域、行政が連携を取り合って、鹿児島島のことを知り、鹿児島島を愛し、これからの鹿児島島について考える児童生徒を育てていきたいと考えている。	(検討結果、今後の方針等のおおりに)	1